

長吏の稱號を維持することになった。明治元年神佛混濁禁止の後、長吏白光院復師して三神氏を稱し、一時神職に列した。

チヨウリカンヌシキロク 長吏神主記録
一冊。白山比咩神社叢書第七輯として活版に附せられたものである。同神社の文書中、稍纏つたもので、明暦から安政頃までの新しいものを集めてある。第三輯白山比咩神社文書及び第六輯執奏家直齋藩文書と併せて、同神社文書の全部を成すものである。

チヨウリキユウキ 長吏舊記 十六冊。白山本宮の長吏が公邊に對する往復の文書を集めたもので、元文元年から文政十二年に至り、その中天明四年から明和元年に至る第二冊が缺巻に屬して居る。この書今は白山比咩神社叢書第二輯として活版に附せられて居る。

チヨウリヤシキ 長吏屋敷 白山宮長吏の屋敷は、白山比咩神社の北隣に在る。初め六段の地であつたが、慶長八年の檢地以後四段となつた。

チヨウリユウ 澄隆 ↓ホウダイボウ 寶代坊。

チヨウリユウジ 長龍寺 羽咋郡谷屋に在つて、眞宗東派に屬する。

チヨウリユウジ 長龍寺 鳳至郡三田(今の山田)に在つて、眞宗東派に屬する。

チヨウリユウテイ 長流亭 江沼郡大聖寺町なる舊大聖寺藩邸の一隅大聖寺川に面して建てられる。楯行五間、梁間四間半、中央部二室を座敷とし、その周圍に廣き入側を繞らし、廂及び落縁二間半、廂附玄關一間半、屋根は四注造柿葺(今様瓦葺)である。建物の姿態平面共に單純ではあるが、主室に於ける床

之間、脇棚及び書院構の手法、各部の建具その他の形式は獨特の意匠から成り、瀟洒の裡に好趣横溢する。もと河端御亭ともいひ、藩侯逸遊の所であつたが、今は江沼神社の有に屬し、昭和九年一月國寶として指定せられた。

この建物の建築年代は、『南無堅牢地神與諸眷屬。南無五帝龍王侍者眷屬。寶永六年十一月二日。御祈禱現那谷法印密啓。御奉行大井佐五右衛門・田中十左衛門。大工塚本吉右衛門。小工國本小兵衛。』と記した棟札の發見によつて知られ、藩侯前田利直の時のものである。

チヨウリヨウ 澄令 白山本宮の長吏。澄昌の子。天明五年(四年とするは非)父澄昌歿後長吏の職を襲ぎ、文化十二年四月朔日七社惣長吏の繪旨頂戴、文政元年六月廿五日六十九歳を以て歿。

チヨウレイイン 長齡院 前田利春の室。利家の母竹野氏の法號。詳しくは長齡院妙久大姉。

チヨウレイジ 長齡寺 (一)沿革—鹿島郡小島に在つて、曹洞宗に屬する。山號は久集山。天正中前田利家七尾在城の時、越前高瀬なる寶圓寺の大透圭徐を請じてこゝに寶圓寺を建て、その金澤に移るに及んで又大透に寶圓寺を建てしめた。文祿三年大透再び當寺に入り、改めて長齡寺と稱した。長齡は利家の母の院號である。

(二)國寶—當寺に前田利家の父利春の畫像がある。もと靈堂に祀つてあつたもので、絹本着色であり、大正二年四月國寶に指定せられた。その他前田安勝畫像・芳春院畫像・利政畫像及び重要美術品に指定せられた利家畫像がある。しかしその安勝と稱せられるもの

は、金澤燈明寺藏の畫像に酷似するから利家であると思はれ、今利家とするものは却つて安勝でないかとの説がある。

チヨクシ 勅使 江沼郡那谷に屬する部落。江沼志稿に、花山法皇の勅使河原右京の居蹟が勅使村と河原村との間に在るとし、一説にそれを河原四郎左衛門ともするが、それは地名に基づく傳説であらう。大日本地名辭典には、古への勅使田のあつた所なるべく、勅使の地名諸國に在るもの皆同例であるとしてゐる。

チヨクシガマ 勅使窯 江沼郡勅使にあつた陶窯。慶應二年山本庄右衛門の創めたものである。

チヨニクシユウ 千代尼句集 (一)千代尼句集—一冊。金澤の俳人既白編。寶曆十四年甲申春南越藤松因序、寶曆十三癸未初冬半化坊跋。京橋屋治兵衛・江戸山崎金兵衛板。宇中の傳千代尼書、支考・麥林の千代に宛てた消息等を載せて、次に千代の句を集録してある。これは千代尼存生の時の句集であるが、誰かるか・蟬蛤釣り、起きて見つなどの句はなのであるが、『廿とせの春秋を経て云々、いまだ高砂の尾上に相生の名もあらずとかや』とあるなど注意すべきである。本書は後文久三年初春江戸丁子屋平兵衛等から二冊本として再刊されてゐる。

(二)はいかい松の聲—一冊。既白の編する所で、明和辛卯冬坡仄序、明和辛卯冬半化坊闌更跋があり、京橋屋治兵衛板で、千代尼句集の後編である。本書は後に文久三年江戸丁子屋平兵衛から續千代尼句集と題し、二冊本として再刊されてゐる。

して再刊されてゐる。

(三)千代尼句集—天保の頃柳樹下菊朗が、前記寶曆本の句序を變じて出版したもの。刊記は無い。

(四)掌中千代尼句集—一冊。寶曆本の闌更の跋を最初に置き、消息文などを除きて句のみとし、新たに大夢坊の跋を加へて掌中本としたもの。その追加十六章中十二句は丈草の作を混じた。嘉永二年東都萬葉堂英大助等板。

(五)掌中千代尼句集—一冊。明和本に寶曆本の一部分と出典不明の句とを併せて兎遊の出版したもの。安政六己未初冬加陽槐庵六世大夢坊の序がある。

チヨニヅカ 千代尼塚 石川郡松任中町聖興寺の門内に在る。千代尼二十五回忌に當つて建てた句碑で、『月も見て我はこの世をかく哉』の辭世を刻する。

チヨヒロ 千代廣 加賀の刀工。加州住千代廣と切る。元祿頃。

チヨマチ 千代町 羽咋郡邑知院に屬する部落。千代町の名は夙に大永六年十月の一宮社務職年貢米錢納帳に見える。

チヨマチハナ 千代町鼻 羽咋郡邑知院にあつた地名。明應八年十二月四日畠山義元判一宮衆徒田畠等目錄に、『百苜在邑智院千代町鼻未進分』とある。

チヨモリ 千代守 加賀の刀工。加州住藤原千代守と切る。永正頃。

チヨロケンボウズ ちよろけん坊主 藩政時代の歳末に來た藤内の物貰ひで、大きな竹籠に紙を張り、眼・鼻と舌を出いた口とを描き、全身にそれを被り、兩側から腕を貫いて、兩手に扇を持ち、他の一人は太鼓で囃した。